



第2学年 進路通信

～黄金の1000日の道のり～

発行
前橋女子高等学校
第2学年
第9号 2018/9/11

第1回進研模試(2年)を振り返って

6/30 に受けた進研模試が返ってきました。それを受けて、英国数の先生に分析や今後の学習方法について書いてもらいました。まずは国語と数学。

国語

I・出題内容から

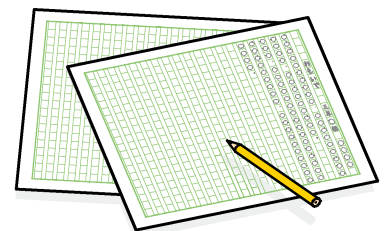
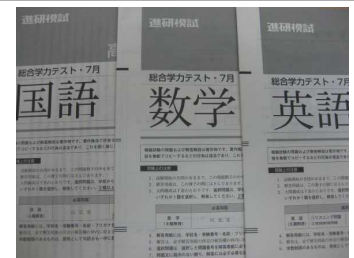
出題形式は評論・小説・古文・漢文の大問四題で例年と同じでした。設問形式もほぼ例年と同じオーソドックスなもので、新テストを意識した新傾向問題などは見られませんでした。出典は、現代文は佐伯啓思『経済成長主義への訣別』からの出題で、社会評論の分野でした。(社会評論を苦手とする女子が多く、その影響が多少見られる結果でした。)佐伯啓思は経済学者で、かつては保守派と言われましたが、近年では、「保守と革新」、「右翼と左翼」という対立軸が不明瞭になったこともあり、これらの対立軸がすでに時代遅れになった感があるとして、保守や革新に安易にこだわることに懐疑的になり、現代の資本主義(新自由主義)経済に対する批判を展開することが多いようです。著書も多数あり、新書や文庫でも出版されていますので、ぜひ読んでみてください。入試にもよく出題されている一人です。小説は、重松清の「水飲み鳥、はばたく。」からの出題です。(現代小説は、逆に女子の得意分野のようで(?)よい結果が出ていました。)重松清は有名な現代作家の一人で、作品はよくドラマ化されたり映画化されたりしていますので、本を読んでいなくてもタイトルくらいは聞いたことがあるかもしれませんね。古文は、江戸前期の説話集『善悪因果集』というやや馴染みのないものでしたが、比較的読み取りやすかったと思います。文法の識別問題も普段の定期考査や実力テスト、小テストなどの出題と比べれば、易しかったと思います。(古文が平易な場合、国語は差がつきにくいといわれます。)漢文は、『折獄龜鑑』で、所謂、裁判物の話で展開も単調で読みやすかったと思います。(漢文はよくできていました。)語句や返り点の問題は平易で、漢文に普通に組み込んでいけば正解できる問題だったと思います。全体的には、例年に比べて易しく、全国平均点は45.4点と他教科に比べてもかなり高いです。もともと標準偏差が小さくなりがちな国語では、平均点が高くなると、どうしても高い偏差値が出にくく、今回のテストでは70を超えれば、かなりの上位にいられたと思います。

ただし、平均点が高かったといっても誰もが高得点を取れるわけではありません。こういう出題のときこそ偏差値ではなく、自分の「得点」にこだわって国語の基礎学力のチェックをしてください。本校の学年全体の平均点は60.3点です。50点を下回った場合には、1年次からの学習内容をしっかりと復習してください。古典文法や漢文句法・語法などは1年次にすでに学習したものです。また、70点を超えていても、偏差値は思ったよりも低く出ていたかもしれませんね。でも、そのくらい得点でせきていれば、基礎力はできていると見なしていいでしょう。間違った問題をチェックし、さらに抽象度の高い、長文の現代文に取り組んだり、和歌を含む物語や日記文学(例えば『源氏物語』や『蜻蛉日記』など)にも挑戦したりしましょう。

II・今後の取り組み

学校で学習しているものは、すべての教科とも大切なものなので、安易に軽重はつけられません。現代の社会に生き、健全な批判的精神を養うには公民は最もよい学習機会だと思いますし、「命あつての物种」というように、安全かつ健康で文化的な生活を営むための生活習慣を学ぼうと保健体育や家庭科の学習は欠かせません。くだらない解法ばかりを蓄えているよりも重要なことです。それを確認したうえで、あえて「受験的な」比重でものを言えば、当然、自分の受験スタイル(目標)に合わせて、教科間にも軽重が生じてくると思います。

では、国語はどうか。(国語を学ぶ本来の目的も「受験」ではありませんが、)文系では一般的には理系より比重が大きいと思います。しかし、難関大学を目指す人は、まず英語でしょう。これができなければ、そもそも国語で稼いでも意味がなくなってしまいます。英語ができて、(難関国立大学は数学もできて、)そして、やっと国語の出番です。ただし、国立大学の個別(二次)試験に国語のある人や難関私大(慶応を除く)では、英語ができるのは当然なので、自然と国語の比重が大きくなってしまいます。理系の人は、英語・数学・(理科)に比べて比重が小さいでしょう。でも、文系と同じ理屈で、国立大学医



学科や旧帝大のような難関国立大学などを目指す人は、英語・数学はできて当たり前で、案外、国語勝負になってしまいます。それぞれの状況に応じて、国語の比重の軽重を考えて、より具体的で実践的な学習に取り組みましょう。「より具体的で実践的な学習」って？ と思った人は、国語の比重の大きさを感じた人です。遠慮なく、国語の教員に相談して、答えを聞きましょう。

数 学

○ 進研模試（数学）の結果より

平均点偏差値は55.1（他学年との経年比較：昨年比±0，一昨年比－3.4）

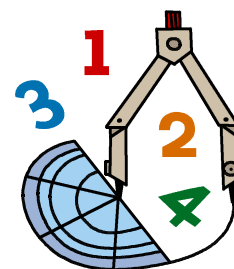
近年では最も好成績だった、一昨年の2年生（今春の卒業生）と比較すると、

偏差値 70 以上の生徒が 18 名（一昨年比－7 名）
偏差値 60 以上 70 未満は 74 名（一昨年比－48 名）
偏差値 50 未満は 105 名（一昨年比＋54 名）

でした。この分布差が、今回の不振の最大の原因と思われます。

また、昨年度進研模試1月結果分析では、皆さんの平均点偏差値が59.4で、偏差値70以上の生徒は23名でしたが、今回、この層が減少したことも影響しています。

なお今回の結果は、近隣の進学校と比較しても、いつもと比べて良くありませんでした。内容的には、「図形と計量」「式と証明・高次方程式」は、近隣の学校と比べても見劣りはしませんが、一方で「場合の数と確率」「図形と方程式」及び「三角関数」では、全国平均を下回りました。特に「場合の数と確率」と「三角関数」は他校との差が大きく、これらが全体的な点数や偏差値の差にも繋がっています。



○ 進研模試（数学）を受けての課題とこれからの対策

模試問題を見ると、教科書より難易度が高くても、宿題等で類題を扱ったことがある問題はある程度できがよいのに対して、初見に近いものや場合分けが複雑な問題になると対応しきれない印象を受けます。

公式を理解していれば正解にたどり着けるものは点を取っていますが、場合分けが生じるような設問や、図形の性質を理解していないと先に進めないような問題は正答率が良くありません。

公式や図形の性質等の「暗記」は当然ですが、「自分の頭で考える」ことを、今まで以上に日頃から意識していかないと、次の段階まで伸びません。

授業のとき、板書を写しているだけではダメ、寝たり内職するなどは論外です。また、予習して正解が出たからといっても気を抜かず、先生の説明や考え方のプロセスをしっかりと確認したり、授業中の質問等をその場でしっかり「考える」ことを徹底しましょう。

また、復習をきちんとしっかりやらないと、身にはつきません。その日に習ったことはもちろんですが、既習の内容も計画的に復習しましょう（これが「受験勉強」にあたります。）

「少しでも先に行きたい人」「難しい問題や入試問題をやりたい人」もいるでしょうが、基礎・基本があつての応用・難問です。基礎を軽んじてはいけません。

なお今回の模試は、文化祭が開催された6月、中間試験終了翌日の実施でした。文化祭の前の約10日間は、多くの生徒が普段と比較して、家庭学習の時間が減少していました。決して良いタイミングではなかったですが、それは他の学校も大差はないはずです。行事が理由で家庭学習がおろそかになるのだとしたら、それもまた、皆さんの弱点（反省点）の一つです。

先述の結果を見ても、皆さんよりも学習時間が多かった先輩たちの方が好成績を残しています。あらためて日頃から時間をかけて学習することの大切さを理解して、今までの分まで頑張っていきましょう。

◎進路に関するカウントダウン **3年生のセンター試験は後130日**

2018/10/3～5	二学期中間考査まで……………	後 22日
2018/10/6(土)	駿台模試まで……………	後 24日
2018/10/27(土)	進研模試（5教科）まで……………	後 47日
2020/1月中旬	みんなのセンター試験まで……………	後約494日